

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号	02 08 07	中期総合計画主要施策番号	4-02 4-03	担当課	部・課	企画部 生活文化課		
事業名	文化施設管理運営事業(美術館)				内線	2846		
					E-mail	seibun@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	・美術館の維持管理を適切に実施し、施設利用者が快適かつ安全に利用できるようにする。 ・優れた美術作品を体系的に展示公開し、県民の美術に対する理解を深め、芸術文化の振興を図る。						
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] ・優れた美術作品を鑑賞できる場や、発表できる場のニーズがある。						
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] ・優れた美術作品を鑑賞できる場や、発表できる場が限られている。						
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] ・県立美術館の管理運営を行い、県民に優れた美術作品を鑑賞できる場を提供する必要がある。						
	事業内容	信濃美術館の次に掲げる業務を指定管理者が行う。 施設設備の維持管理、 利用許可及び利用料金の徴収等、 展覧会の開催等に関すること						
実施期間	S44 ~	根拠法令等	博物館法、長野県信濃美術館条例					
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)		達成状況	評価		
	信濃美術館の運営により優れた美術品の鑑賞機会を広く県民に提供する。 【参考】 県立文化施設の利用者数のH20～24年度累計目標:6,323,000人		・信濃美術館の適切な管理運営を行うとともに、多彩な企画展の開催などにより、県立文化施設利用者数の目標値をもとに美術館の貸館以外の入館者数において年間164,600人程度の利用を目指す。 ・教育普及事業(生涯学習や学校教育と連携し、子どもたち等に幅広い体験活動を提供する事業)の参加人数を過去3ヶ年平均(11,474人)より増加させる。		・施設の適切な管理運営が行われるとともに、貸館以外の入館者数は217,776人で、対判定基準比132.3%となった。 ・また教育普及事業は18,423人で、対前年度比112.3%となった。	a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下		
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要	
	最終予算額 (A)		千円	147,772	148,579	145,711	国庫・県単	県単
	決 算 額 (B)		千円	147,771	148,579	-	実施方法	委託
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	143,949	145,355	143,026	歳出節別内訳等	・委託料:148,579 (単位:千円)
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.5	0.5	0.5		
	概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	151,341	152,154	149,286		
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績	
	入館者数(貸館を除く)		人	179,122	217,776	200,000	・施設の適切な管理運営が行われ、利用者に安全で快適な利用環境を提供した。	
	企画展数		本	4	4	4	・カフェやミュージアムショップを運営し、利用者の利便性の向上を図った。	
	教育普及事業		人	16,402	18,423	18,000	・学校教育との連携、館外活動の充実等を通じて、未来を築く人材育成に貢献した。	
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明					
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明 ・優れた美術作品の展示、多彩な企画展の開催、学校教育との連携など県立美術館として役割発揮が期待されている。 ・18年度から指定管理者制度が導入され、効率的かつ柔軟な施設運営が行われている。		
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり			
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり			
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり			
課題の総括		・本館は築40年以上経過し、老朽化に伴う改築等を検討していく必要がある。 ・入館者数は長期的に減少傾向にあることから、将来の来館者となる青少年への教育普及活動を推進する必要がある。						